夏満津里浪花鑑

四

8
4341
4

松林

神宮文庫 昭和三年 消

4341 4

夏まきの頃種蒔きこと

遠りあ二きふこい穂ちり中こ戸にのうまん嫁ゑ人をこの私うやう

ようこあるる門に出るそこうこ庭のうこうり奥庭に内義出こ人ありまん

みうこみんどのうまんけあるよ代侍八性をひうくそうぞん恋をする

けんくふくまくひうく

下男 ト下男 きく人出て

中 清兵衛町の伝兵衛うこ来り外こ出れ外出うこ人外こけるの

まうこうのぐうこぐこけうこにムり外ムうあすでもま一度ゑ人をそうぐ

さうまを 侍 ハイヤイアこその主人ゑい。清せく義へこみこうぐさいでこと

もあぞやこのい清せく ト孫こ恋ゑ代の形 義をこけ義よりおて

ぞんの 侍 おいく 侍八成うんの用ぞや

中くゑ人をこくけうる 孫 こうりや久家ち町の伊義へいてみこういの 侍 ゑんか

そうぢや　イヤお仕右の主家いてちらへんをてゐう弁うまさくへ
ませぢぶ指して　弁ふといふて　下男　ハイく　左様ぞうそふ
中弁ふトいへく　侍　ハイく　代二人ハイく　侍　やしく　今紀ろう何
行水まておぎや　ハイく　トゑ代二人ハイく　侍　やしく　今紀ろう何
さふことドレ一ふくせう弁ゑ抑まぢよふこのせんぢにゑ代が何りやてそ
時者ひも姫さ者ぢや清七ぢこも他分あまを見ろて白義ぢや
とつてゐる形みーたぐよいぢや　侍　イヤモウそふ思つて他分ろみさん
の者ひの仕ふを主を行ちよふはても気を仕ぢ者ぬ者ひる中姫
てのまをういくまうてゐう形ぢやゐんこいの　侍　それい左じや
シタガちつとゐまるとそんゑ指ぢやゐいまちやく気うおまう者
もうぢこふさんようはて且紀のよおのようふい色ぢ引色てゐい

侍　それい和ふんを　侍　陰分　宇にちを以て実色で者ひのうを
ちうやうまさぐよいてそれぐ半れのゐう且紀のゐぢやイヤ且紀
のゐでおりひ色さうふい且紀の病主本紀の内紀ひするとゆう
けさんぐ内紀ひゐでいゐいう　侍　内紀ひゐでゐいとなんぞ
主者ひいをこいうまいぐ　侍　それぐいのはを紀ーゆもするようゑだんゑの
まぐくぐうゐいとちふのぢやゐをといてんてぐよん山分でいゆびれよ
のつこ山分体紀れふといていはお仲分とゆみよ分様よお仕さんを
入ゐ者う蛭入さう男ふぐゐいうどふで参をとう様ぐゐくぬゐれい
これ本紀紀ひうひこえぐ紀のまぐくとふのぢやゐまいう　侍
ひどそりやそんゑ指ぢやまいの　侍　者ひ様ゑもようふまつてゐるゑ代ても
ゐんでもうふいふおまでもまうゆう変明そうふこまを参ふ紀て丁の名

あも切うて左そ左伝八みそとすぐ家のあまや　孫　そまこく　伝
の西へ左もはらぐらうくしてあら内よおむをならうぐい痛ようして
ちまふまじやちうぐまはあいゆぐんぐるうぬ旦那うなんで笑ふても
ちまとめようちゆういは　ぞそぐ　逢ぐぐはをゆうぬどつうつおあ
とせめくうるでみふ　孫　さうのまびば逢と孫ぐうあふぐ　伝　とつとりふ
そんうすあうとうまいうまぎやうのいといふぐ中つぐうをゆりひ生雲の
神もどふう物うくてあうくゆう二役昨もおもとの社もあてにうる
ねぎやみいうん　孫　伝八や伝八くく　ト内ようおみよ　孫　それく人るいえぐ
姫ばがこうあをよいまゆるぐや　伝　八イくく　孫　伝八をよいゆうくいのふ
伝　八イ変にゆり井　孫　とうあがいめそぎやとふい伝八所のかかを変へ
変のうせみすあくゆう後ちのちやくいのふ　伝　ぐうア義のあ智ゑすあ

松林

具歌う伝伝八ふかぞ左へうくせうく　孫　そのすでちやくいのふ　伝　いうれ
そまうのうゆいぐうをうりやすぬんうくいドレ　孫　孫　ゆくのうをれ変変
ふあてちやぞや　伝　ユとうまくはふ　孫　孫　ハイくのうをれ変変
孫　孫　変具歌ハ変ふ物てムのうぐモウかめがうあはうう庄ふけううの
比てあくゆうをあううどれ伝伝あうあへゆふう　伝　うのうのごうう歳
あうあをとううふ地家のひすあ嫁入ぐうのぐううりのと人もうふと
ようせ変れのまんのげうう　孫　清せうふ伝ちてあるういのふ　孫　ホウ
変ハあうあうあけうう庄う弟がちうく後うくうかりうかり伝数　孫　サア
うううううそあうの敷見ぬふうくぐうふ屋ゆうちくゆりつてわう
ちいのふ　孫　ナあぬ変サア変てんのぐううのうんうのうアう　孫　ういのふうう
ぐうくぐううれうれど巳ぐゆりふゆうくうれんれんるせめりの　孫　ハうあの

松林

かいてもあんをみんなかぐらこのれんをもて清七がうんそれどいだこうの伝八
とふたりの底よりのぞくこうさんのぬけてぎやいいて伝八と猪へ出てたりこ
いてもあれこふまつこうそつのく伝八をしこうさん出てこぞくれうこう
まくこうこと清七と三人かぐらこれつぎやみいりの所 成 〇ハ〇アそん
みうりのこと家ぐらこうさんをもて伝八を見へ
やうりのもがみり居ふ 〇何いやりやアノ伝八を大体こやくこうさんをみい
そこぐふいやうとみんかもそうこに〇アノ家ぐらこのの伝やうやうこの
外ニアノ成こうこで トうこ入 清七アノこうこのこうこうこんの病気ぐらくの用状
おやようてアノ底こぐうりのこそこちうとアノ奥ぐこぐへ出くく
こうこぐよのノウおみよ 〇そんなうこ三人で成一けりやうぐこもぬで只人
家ぐうこのアノ 〇ヲ あのおれこのふいやりやうこうこ家ぐうこれのい

松林

面白ふこのい〇清七や トこうこ こ臣みてる 成 〇ハイ 〇そのこいうぜあをつやこ
そいのふ 入おり 成 〇イヨおもや外ふこうこ底やうどこくこと家ぐこの
絵ぐこうめようこく 〇清七いのふ 成 〇ハイ 〇ヲ つのとりのアノけこうの
家ぐうこうこの 成 〇けこうこのおこうこうこれこうこのハのの外ふう
〇ハのあよ家ぐうこうこ トこうこ地こ成 〇つれぐ家ぐうこうこれほしこぐんみア
〇ヲ けこうこのそれいのふ 成 〇そこいのやこうこでいうア 〇ヲ 人 成
おこうこうこ猫みそこれこうこ成 〇底せこぐこ臣て
みそこのこ二ここうこのくこうこいこうこここうこる 〇ヲ で トこの人 成
こここ底こうこのふ 〇ハのひこ中家こうこの外こうこいこぐこんみす
〇百人首いこうこでこうここうこうこうこうこうこうこうこうこうこ成 〇ヲ
こうこうこうこサアこ中ここんこうこふ 〇ヲ ふこうこ清七こうこうこぐこうこ
いやこうこいこここうここけこうこめふ 成 〇ヲんのマアいやこいこうこんこぐこうこ

うるさもめつてよとうるさくあるこぶ陽よりあるこもたびうるうるまぶ敷を
ふるう〔そん〕みるこれ百ふ〔に〕にみいもせめものそりや大方敷をうるる
俤くのあるる木のこそでみるふナア蜂さん〔ア〕〔ア〕ゆるる大るるまのるる
のたとくあるるまてもあでだあるうるかるさんのるる西よ〔に〕ゴるまんくされ
よるるる猪ゆひ貴に高ぶるるとれとゆ〔に〕てみるるのふサアるまめゆ〔ア〕や来て
たるれのふ〔ト〕〔ア〕〔ア〕〔ア

何のぞやまろみつこらまろう清七がよ成こゝまて見こそたりいのふ
きありやゝんでムり弟ゝぞ（サアあのそれいの磯こゝ見こそ
（俗八夜それいうふぞやこんの婦こゝ清七こゝ行よこそ
たもこいふそのぞやこんのふサアこいゝ不潤法ゝふ俗
こおゆこしら成てこいふても不潤法ゝがおり〳〵ゝ成れて来利よゝと
こいこつまそ利ゝこら成るのゝどやこんの（八つくそんゝこいアノこ
ゝこのれよふ清七こゝこそてくアノゝゝこの（ト品の八イヤ
ふゝこいこゝ丸沢よに清七ゝの俗黄後の祝蓋義こう半てやこいこ
（イヤそのゝ八こんゆゝ安めゝ（めつそふゝこいこそふいつこ亜
このこゝ八そこのこいこん大こ義こゝ義へいく出てこそたも（そんこい
アノゝの俗の祝ゝこと（大初屋こいこゝのこの法文ぞや今ぞやく

ちゆつこいこゝや（ドレそんゝゝこいゝ（ト磯こゝ成ゝゝ成ゝ成ゝ成

屋
娘おみよ
お代伝八
三河屋伝の男

とゝのゐをそろりくとあゝとうけるとまつくゝとしてそこそのそゞ
こでいつゐめるりとあふぎやゐうぐるさの神はいとくゝあらんがたゞ
ぎやゐるてゐけがをするぞゝ合ーよふぐるるいとゐふいんめをせゐや
ゐるぬゐをあぐるふゐるぐ侍人がれぎやとんるものぎやとあい
まて刀てこぐよんれもいゆまでゐるけりや叶りぬゆるふゐるぞいる
みよんだ侍人ゐぐるこの合ーゆるが悪ひくいんめするゐぞせるゐ
ぎゆや侍サアそのいんめいアノゐふそるヲ若狭山みつるゆま
とりや侍ハテ行みるり山のさねぐるのるいゐアみよひぐるぐふ
まていんめするや侍アるうるゆるゐけよゐ行ぐんとくぎやみよ侍ぐんゐ
とゐ何のゐゆぎゆへのふ侍ゐんゐるハゐるぐんくせいゆるゐアノゐんぐん
とくぼんくががぼんとくゐみよなアそりやゐんとくゐのゐゆでゐふ

侍ゆゆ
ゆるるそのぐんとくゐ小金山峯のりるち薬師のぐべナるるあゐん
みよ
めるるゐるみゐんとくゐあるんもいぐるき人ぎゆるゐのふ小金山ゐ祢の
りみぐち柔いてゐしんゐぎやのゐみアみよ侍ハテゐるるひゐみるる遠ゐゐ国
ぎやお仲女ゐ祢のゆるるちでゐ侍ぐべお仲女ゐゐてくゝ一ゐく
ちるぬゐんのふ侍婦さんとてゐゆるちまそあるるんゐみアゐゐい今一度の恩幸
まるゐんぎやゐんゐる侍ハ侍ハ侍おいくハイくゐるみてゐり外おみよ女
恩恵女ゐ母でゐるハイくおいくおいくお乳母もよぶゐんぐゐるみこと
ぎやゐるゐみハイくおいくサアちゆちとおいぐく侍ゐるくして
みよ侍婦女恵いくぐゐへトゐいくおみよゐるるゐるゐ
のふと侍トゐを侍ヲウト行ゐう一ゐよいくゐんゐいのふゆみよ侍も一ゐよいくゐん
ゐゐ行ちゆりぐんのふ侍何ちゆりとゐおゐう女ぐ侍ゐゆくちゆゐるふ

松林

て清七やおみよ友とまいて仏八ぐるへおまくゆてふいみまいぐみ光
うゝゑゝいくゝ稼んけくゐるゝぐてゝゝいるゝよぎゆまゐいりや
るゝの巳ゞ上の句とおあのゝ下の句をついろう捨て ゑゝるゝ巳や
んゑいの 俗 引るいてぎやゑふつのようみろ あまいく 俗 ゆゝ巳ふ
いまんゐ巳ゝるゆいゝんいゝふりのぎゆゑへマアにく トロセてしてするとゐるゝアレユとろ
ゆくまゝくゐをゝるようふゝそ 俗 よゝ巳へ俗ゝゝゝゝゝ引ゝゝ
俗 ヤア あの ゑいゑアノ何ぎやゝとゝゆまゝへぐゝてゝゝゝゝゆゆ法
るゐよゝてゝゆゆ巳ゐゝませといゝゝゝゆ法ゐゝゆ巳ろゝてくゝゝり
ふよをゝゝてぎやゐよゝくゝゝそこで上の句とゝゝゝゝゝ合めゝゝ
てんぷのゝゝゝ巳ゝて丸ゝふゝゝゆゝゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
句とゝゝの句と 俗 あゝゝゝふゝゝゆゝゝゝて 俗 アノゆまゝへのゝゝ上の句とゝゝ

松林

丸ゝゝゝゝ上の句ナ 俗 引巳いゝんの 俗 あるゝ句下の句よゆけぐゝゐふ
て ゆあでゝふゝり ゆる 引ぎゆゝくゝゝそゝりゆ何いゆるぞんのふ 俗 何
いゆゝもすゝゝ巳いゝん義の句うゝ何もゝゝゝゆゝりはゝゝゝゝゝゝゝ
俗 清七ゝ義ゝゝ丸ゝゝゝ行ゝゝゝ 俗 何ゝゝゝゝゝ義ゝゝ丸ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
にゝゝていゝゝゝゝゝゝゝゝゝんぐゝ巳ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ義てにゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝふにゝくゝゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
にゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
義ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
俗 ゝんゝゝゝ義ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ぶあるれうつるア 磯 「孫」のあるのうちゝぬがいまのいなのぞや 俗 「いまのよ」
ぶなん 磯 「義と」ぽんさぶ」さるれとゝ 俗 「ハテ
るみてたあるものう 磯 「そんでもものまぶ」ぶ」てんとんと ものまぬたぶ
ぶらるる白」てるそちんせ 俗 「どんそんるゝさぶ」てうふ トゆふイヤ
くのちんさぶそふるん 磯 「ハテ扱ものぶ」ぶ」ぶ」ぶ」ぶ」ぶ」
みゆてぶやちんうのそれよ義へ初まんといふいうアコリヤかるるうう
ぶやコリヤ 長歌 一寸耳うるみやすまんるん 俗 「コリヤく何も長歌耳
うるるいるへゆまが義へいくさぶ」てうやよんどやうんる 磯 「ハテ
注文のるるのあいさくすりやるんそ 俗 「サアそんるゝ義へいそうふるん
あるさう亜へるの注文ぶそそ いまくまへ トいふく
ゆるるるるるるるる 磯 「コリヤ何るるるるるん井るんどやゆるんそ

十四ノ九ノ十二

あるるるくくるるそあまるやるるわふるるるるさぶるるアみあるるるる
小野小町の歌をいく男の数を百人首も抜るたゆ玉小野のるう手を
女ふみるさるるるるるるるるん 「清」せるるやゆるのどやぶんのふ 磯 「るふ
いゆるるんるるるるるるる俗へとぶゆるくくる義るるるふるて物ゆ玉るん
みア 「コレゆるさあるるゆるるるるの銀ゆそ見るゆを玉あるるんぶのるふる
俗 「そのゆよいゆるのハモうゆ」といやよるるるるやるるるやるるるるぬ
どるるるくぶやく 磯 「義」かるるるるるるるるるんのそれを浅のぶ気人ぶゆ井るい
「そんでものゆるるるるるるるるる 磯 「サアよるふるり井義いるん法さ
るんるるア 「そん」るるるるるぶへるるそれるるるや 磯 「そるま切くるり井
「ゆ」まるる○かるるのいるや トすりるるのあるるく 磯 「ゆるんるるるるア トるるる人
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
人びるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

又ようそいたさつつく日ものを更清七コリヤうれじや　とそ行人そそめんまるる
行人そそうまう待くさそこれをみそ清七
侍　清七今おみう女とありやうみんじや　磯　うんぞやくるんぞやの
侍　ちんじやせうがいくくくんぐじ家よまめつまめうそくくくきき
つくうと抱付て口をせぐや　磯　めつそうきのそいうんまうんのおうそ女
とくくくてそんるみとしてたまるまめうるる　侍　そんるうアノ者門ろうと
抱付てはくしてくくくんろ　磯　まくくくとんの　侍　サアぞやまうつて
めんようるる　磯　そくくぐぐふしてめんまうる　侍　清七今のまうぐくのつくくを
ぞや義くくみうくくうとはくくしてわるやうよみくるうんあんまうふぐや
清七おみう女とやまくくうと義はうとしてあいてうぐくまま一変義いてあくくうる
みてくくも　磯　うのみをあやうとはいくぐうう　侍　何あるとはいぞやるへいとう
うくくくみてくぐうんそも性の様ぞや　磯　まやくうふてマア　侍　八テ

十四ノ十三

扨いくくやくいるよやまがいるくくくうぬん　磯　うぬぞやたんそんど　清七
そのうぐぐ義へいくあるるみうはもれるふんの　侍　めつくくるやまくく清七
と二人義へやくくたまるれう　磯　そももくくふくんのこんどんおみう女と
はくくくにあるのをぐふみくるぐくうぐ女うくくみうみうんそも
くはの様ぞや　侍　何いるやくくうやどふやくはが義用ぞややつぐり
うぐくぐういくくやお仲女くはと変よくやてあるくくくおみう女
はくやくふあるくくいやぐやくくうんのふ　ト磯　ひりくくくを行人　侍　清七ふ義へ
いくくあんのふハテいけくいるのよ　ト磯　はくくくはくくく

忠七九郎三清

文代清七
娘お仲

[illegible]

男 あやうう

[illegible]

伽 何もそこそこ女だまじや

男 だまされや

[illegible]

伽 何するこんまうてわるあく

[illegible]

伽 何するのじや

[illegible]

男 イヤ己い事丸の者でムり升

[illegible]

伽 八ゑ物まこだやの

[illegible]

伽 ハテ山ころこん伽

[illegible]

男 こんなり出ぬ覚がムり升ウ出ぬと

[illegible]

伽 [illegible]

男 ハイそんな中さ

伽 [illegible]

[illegible]

[illegible]

伽 八女ノ女や

[illegible]

男 [illegible]

[illegible]

男 合点でムり升

[illegible]

伽 八女ノ女

[illegible]

伽 サアどんせと

[illegible]

伽 サアこれ

[illegible]

[illegible]

伽 ハテ引ろこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そのさたぜにふ身のうへをかくまゐらせんのふ　孤　ヲヤ友身のうへを
うくそろへ　孤　なまそのゆゑぶやうこと日うりかうんら　いとやいそめ立屋の
あどじどふでもは　あう人そうふに　ふ男にもる人いそのそるでとやふ
ふ身はそを求てゆメて垂こ身のう人氏素性あう野名なうこふう
孤　へせのうんもこうりを悪友　孤　ヲヤうつけもうんそんな
こういうぬもの身の上性も何もうもら　いこい又さまにわもござう
孤　ヲんのふきそうこうや何やうや今ごうんわどやうんのふ
孤　いをくせいてんとを仕そんどうと何でもうこたくるゆうまするうふ
ふう外　孤　それでもそうこの身のうへをとうこうとこうみや　やうす
ごすまぬもの　孤　サアやうこうと笑し外うんで　孤　そんあう来てなのふ
孤　サアくうをとんてふうり外　孤　ヲうや今でうけりやこうやいう

孤　ヲまいつくそれよせんこうよ○人う又りやうこいうんみア　孤　ヲうこうを
ふ　孤　なまもうやせぬうふアトあうをうこうい又ゆそ又ゆせぬうんみア　孤　ヲ
又こくまくよトヲ引　孤　ヲ蝉　孤　ヲつくさ　浄　夏の日いうけくう美荷乃
いつこせこもくいとうの者ども　孤　ヲウ九郎兵衛友あついのよせいが出外のフレおうう友ヤ美ども来て
いくくあ乳母どのようふあうまゆりませ　孤　ヲどれうごたそふいうふ　孤　ヲサア
そゆふお出ようりませ　浄　ヲまくと怪うでお仲い孫ゆくそうゆく
堂　ヲヨこりやあうゆりでふう外　孤　ヲうこうこ屋友ど来ておうこ外うふ　孤　ヲ内ゆそ
浄　ヲんくこうこうふうとは家のうこう乳母こせう片よに表へ出
孤　ヲく堂七友ふんせそふ且那の病室幸後の内抜ひうまにでもせふ
うこうこうどう何でゆこいりのどうこんの　堂　ヲハイうこうとせうのはあうで

ぞこぶつもあげすくのつてかごようみみをあらでムり弁ゑ垂てく向り弁ふ
うい此銅ゲ明うぞんどう　ヲくあの人としてうのゲ臣やそんみとん合ん
いうぬうんの　ヲ　ヲつとちてい訳ん八ト　ヲくそりやうとへ垂ゴ
ヲ　ヲいうみ物で安う材ゑふあうう弁けそぶゑゲ十ヲでハト　ヲんが
のふ秋にうう恨こに名のううゑぶゑの出せいへいどみへそんゲようろやん
のイヤかよ名のうう次よに垂七ねこみんまくうこ慌ううくて時と
今い名もかうつくぞゑゲど也ことでゑとうくうつくぞへのふ　ヲんぞで
ムう弁ゲてう志うんゲ去ゑ名へへかでくへて雑弟志ほて支で慌弟
わへんぬ志こ友垂ゲせうで大坂へ引越てとんと仏もいきうへ法ゲでよれ
も九ようえとうへ弁こうれどもいひ弁こ名ぞやようて弟ぞう垂ゑ七
といふ人もあう九ようえといふ人もみそこでいうそ二ゲごうちやゑかつて

垂七九ようえといひ弁でムう弁ろ　ヲそのふ　ヲイやうふこしゲ
葉とんふいうこあでムう弁次弟くれ垂のうどゲこまるねどんもひとう
ゑとうねうくあい幸抱ゲ大ヲぞ名て変よゆうこあゆ法垂ゑもおれゲ
垂ゑよこく内垂へ弁ひてあうゲ使ゲ幸抱う弁ゲたくゑ死ぬゲみへぬ役
のこうてもそこをぞうとうんみんすゲ若イ志のたこうこ又弟一うゑのゑ
ぞゑてイヤ垂でおすへ出しさかゑすのこうへゲ法貝■ろかへ十ア名
うくうゑ　ヲくあの人としこうゲうくの大れいてこあゆ行よの内垂
のヲぞゆこうつくかうふてもんでみてこくへとゑとんうゑ
大垂ゑううこゑんこーらくてトさんせ　ヲかこまりはよ　ヲ
こくてトさんせ　ヲ乳母を抱よへゆく法の九ようえい教ひとの　ヲ
垂ゑ名ゲ弁ゑ垂ゑさぞれ雑弟ふうり弁ふ志ゲ方垂一内弟垂

松林

くるしい大切なお身をお捨てなされくひさう弗い 俗 〔そのやうな
金品をしてゆくうんのきつぶ何よ対てもそうこれいんをひ乳の云
ようふも 老 〔ハテ扨中くたいもうんそんみとくとくやうくうんこぶ
らうぬやうよりあさを 苦七ろ ト わくようぶ イヤ扨乳母どのゞ行ておやうどりや
産婦へ参り弗ふう 俗 〔漏よくくと堂七の荷を引うげ入ようかる
扨それ表のうさ一ぢくつまさう田舎屋敷へ立ようて 苦 〔どもとたる
又扨ぬそふいあんみいせん 苦 〔たのこ弗ふ ト 俗 くるる 苦 〔元ようこふ
扨ぬ乳ちうれ弗さお指ようこそ扨ひさう弗くサアマアくあまこ〔去
むくくサアマアくあまこ扨ぬうひさうまを 苦 〔おうこぶ出発あまを
ト四一 俗 〔ようふ扨ひしひされ弗さ俗八俗くト 俗 ト 苦 〔元へどや中扨ぬい
○ホウ元いようふ扨出ちあ弗さ俗ぬ扨ぬ乳ぬ扨ぬ乳ぬあてこんよ扨こぶこ弗ん

有林

ようて云 苦 〔ウくイヤくこうこふいうまんぶうこ扨くまを迷なぶこうや
そふ何くこうのふみこ屋杜丹のこ男痴ゆ十表ふまけ十こ表ん 俗 〔八イ十
苦いれも表こうこ隠くやて又はこうこと八指表のれがこ乳うけて表
けようくいとやて扨弗ひつこ弗ひうれ方のそこうこでひう弗ひうこぶまこ
俗 ト 苦 ト 苦 ト 苦

帳
道孫店
代清八
仲笑弥布

代清七
十四ノ十九

うつく大きゝ今をとゝつけさと大坂中の評判でムり弁みくのこと
をゝひとゝもして恋求めらるまを清せも陸分とおれ恵やしぐるよりて
〔ヲヲ〕行く〔ヲヲ〕分共も正まゝ〔ヲヲ〕ゆへ〔ヲヲ〕千あふ分中〔ヲヲ〕恋えゝ
中て来〔ヲヲ〕殿の四用ゝまゝ〔ヲヲ〕ゆへ〔ヲヲ〕恋求めゝ〔ヲヲ〕なりやゝ〔ヲヲ〕ゑゝ〔ヲヲ〕恋ふ〔ヲヲ〕新
ゝまゝ〔ヲヲ〕今一度只中〔ヲヲ〕んゞ 俗〔ヲヲ〕まゝ〔ヲヲ〕度只〔ヲヲ〕ふゝ〔ヲヲ〕ゝ中〔ヲヲ〕四め
ゝゝ〔ヲヲ〕ゝゝ 俗〔ヲヲ〕ハイく サア四浪ら〔ヲヲ〕ます せの トゝ〔ヲヲ〕ゝ
ゝゝ〔ヲヲ〕ゝ〔ヲヲ〕ゝ〔ヲヲ〕

丸林

弥 〔行ろろ拾ふく中賞弥市門にうろ〔と〕のぞき 弥 〔内〕ろこにうる
孫 〔ヲ〕く弥市殿うーどよん正へようぞんてこのふ 弥 〔ハイ〕けさうろふと
おりふさうんどの何のやうやかさたらるゆど用ぐみておとろり〔と〕て
孫 〔聾〕ひるみおまやアノ香爐を来さうるおぐ来くるゆとたんぐい
たろろろふ拾明てろんせぬうんの 弥 〔地〕といふくどのろろひまゆみ
孫 〔ハテ〕このふいふさ毒ろふまけて毒さうよんうんの 弥 〔ハ〕〔く〕てふハ
いけぬうんよふおりふく見さうよん方ぐの毒能〔毒〕ても換料よ麦
みどふふれる代呂おじやうんどもちろと拾ようみて先ゆもさろふ今
のいろゆでろ〔と〕たのんでまゆよろくたいうんみてろろ和狭めで
ろろふうそふいまけぬうんる一うん八ナあくふ毒白ろろ安い百あうあ
ろふろく来てみうんどあろよ今にせやといふあうゆよろて八ナあと

松本

おり出〔て〕ろろで二安とみあのろろんどふぞ〔と〕うそろふて見よふ先
も〔と〕うろろふ毒白ろる人あんまりゆそふゆうどに〔う〕けるふふろろも
なろうんまゆて 孫 〔ア〕ろ絵ろろこてあるそんろうこふせろおまうれた拾
を和ゆでゆふ一あでゆをろうふやサそゆて毒さうよん 弥 〔サ〕アそこ
うどんるあでゆう拾うんろつくくろうよのようろ出ろろあろろ絵りう
まろよんうんど素人あとうい弥市ろるんまろせとゆま二弟ふてみ
代呂おまゆまようくろつとろこうめつろるゆもふもまけふくい髮
ろつとろゆうどくるあでゆう拾 孫 〔サ〕アそんいそふうどやろふんど
先ゆもうよ今ろまろいといふまやろいうろふ賣そゆ〔と〕ろ毒ふ賣
人のろい代呂おじや大ういゆう毒ゆそゆてまけうどよんろうちを
いつそはく一どんちゆうどにれふうでサアくゆとろふサア負て

林

ゑんせしもれ角まちうこゝあひせめも孫ゑゑ又なんぞでいま
あるせまちぐよんちんの 孫 ハイそりやマアそんなあぢやみア名に
今よまちしよん亜よりうしとそふ猪よぞうふもいきふくい思や
孫 そふぢやとも 孫 いつそまけても志ま地ふう 孫 そんいうしどけい
孫 ア〻おもせんまちめんく 孫 ト結人 孫 つく嫌まち名で藤分さ
孫 イヤモ悲ふそせうぢやゑんが地まくあうそまけもそれまちぐ
先ふ地り地しふうまちめく 孫 サアあいちんのイヤ関よいそあうい
うちいゑいあそでなそんば浸ぬぞや其内香煙とうぐく 孫 三清
七さんそんでいこうちの立面が悪ふちんよふ出案してりんさがよん百表の
代呂あをみナ表ゑまけるのもうふ今は亜てゑ先くうち亜てさじや
みナ表ふまけくやつく今らあをそうのあうてのくどふそいうそん

松

うあでそふいふあるう亜冷コリヤ皆のあうぬとぞや人の大ゑの左
亜ぐやそゆふ廊してちまゆふうんドレ香煙こうちく席してんせらう
ちもなんそにそのふく二三家見ゑらくあうらしいてうらんそん
孫 三浦市成そそうあゑもぞどふゑいさいのむふもうん地
あを今の浸うゑちぐんのゑいあすとらいうゑさんが表うくよんゆうにを
て 孫 サアそこぢやうんゑあるまううゑふ今づうくれ亜てありや
こそみナ表ゑまけこそふとういふ代呂あるをこものちこも今ら絡
てでさんとそんゑゆこ亜いこと人いいふりちくぬうゆ山浦市まれ外て地
んゑくこまくこゑゑれ大こうふぢやハテ表こくせゆや元くくやうこん
へ代呂あり亜てちまんさくすりやゑんううくたうどんゑ見ゑあふもこ
うんくサアちゆつと香煙を亜てんせーたんマアこゑさんが浦明

ぞおやイヤ又あるめも毛刑ふうく山氏爰のうちへなるふるこ花
そのたもおらぶよゑナあるうふ者煙と幸に夏ともゆるこもあるを
いよ行入ゆうくいふぐ一たんうものふとい せんさくおやゆん 俗 ハイヤゑく
弦市及イヤ弦市あぐつゑ人をうぶをようゑいひぶん乃とおろふが知
うまへが了香炬を行入をくうに しうなんとすうぞ 絲 ハイ味いゑを
いふうろおや数年ゑでくてゆる弦市おやうんのちようとういでも旅
ゑうあいをぐもんじやゑいゑ年ゑとうふ金塗をせぐおうぐあるて元
出よふん 俗 弦市 行ぐるうぐそ 此清 七りゑナあのゑ出て見せふうを

ちやゆんうう

五ノ巻へ

夏祭浪花ぐみ巻〆 四冊

ぞ　ぞや　イヤ　又　あらめも　蓋　刈　ふよう　く　山　風　爰　の　うち　へ　なる　ふる　さと　花

そ　の　花　も　ちら　ぶる　よ　ふ　な　あら　ふる　雨　を　幸　に　愛　する　ものも　ふる　さと　も　ある　生

いる　行　入　みる　と　いふ　ぶ　一　たん　ふる　もの　ふる　せん　さく　ぞ　ゆる　ん　俗　へ　イヤ　これ　く

ぶ　知

本八幡

二十五年八月